

今後の湯沢町の

将来展望をどう考えるか



柿崎 直治

まず冒頭に任期4期16年間の職務に対しご苦労様でしたと申し上げます。

さて、町長が平成元年12月10日に就任されたときは東京都湯沢町といわれたほどのバブル景気で町にはマンションが乱立し、町の経済も絶頂の時代でありました。しかし、その後の急激なバブル崩壊という景気低迷が起こり、今日に至っても、国全体の経済情勢が不安定になっているのが現実です。観光産業が町の基幹産業であることは論を持ちませんが、その中でも特にスキー観光は依然として低迷しており、それに伴い財

政の要である税収も年々減少し、滞納額が増加して、町の財政は非常に厳しい状況に直面しているのが現状です。

こうした中で町長は退任を表明されたわけであり、それにについては人それぞれに事情があり、また個人的な問題でもあり何も申し上げることはありませんが、任期16年を振り返って総括という意味で以下の質問についてお答えください。

質問 16年間あなたが行ったきた施政の中で誇れるものは何か。

町長答弁

16年間議会や職員の皆様のご支援でいろいろな事業を行ってまいりました。その中で誇れるものという意味ではなく今は思い出しとして残っている幾つかの施策について

て申し上げますと、アーバン・リゾート・シティ(サーティ計画)の中の花水木構想、1票差で可決された166人乗りのロープウェイ建設、平成9年に建設した特別養護老人ホームゆのさと園、平成3年の岩の湯から始めた外湯めぐり共同浴場建設、川上四郎先生の童謡展と川端康成雪国展の開催、町立湯沢病院建設、最近では旭原の活性化施設大源太工房を含めた中山間地整備事業、アメリカのマグナとの姉妹都市構想などがあります。

質問 現在、ロープウェイ事業所問題、小学校・保育園統合、中学校建設、滞納税の徴収など今、当町は重要な問題が山積しています。これらについてはどう考えていますか。

町長答弁 今湯沢町に重要な問題が山積しているのは柿崎議員のご指摘のとおりであり、そうした中で降板ということについては非常に恐縮しているところであります。これら諸問題に対しては12月9日までの任期中に一つの方角付けだけは出して退きたいと思っております。

質問 新しい首長に望むことは何か。

町長答弁

町長はその町の顔であり、代表でありますから、まず町民の声をよく聞くという姿勢、そして利権に惑わされることなく誠実に清潔な施政を行うことが第一の条件だと思えます。

質問

最後に湯沢町の将来の展望についてどう考えていますか。



質問に答弁中の村山町長

町長答弁

確かに現状は厳しい状況ですが国の経済情勢も好転に向っているということも金融機関から発表されております。湯沢町は交通の便という点では他町に無い独自性を持ってあります。合併をしないことを選択した湯沢町ですが私は今でも正しい選択をしたと思っております。

事務事業の見直しが進められてい中で今後更にそれに磨きをかけて議会、職員が一丸となって堅実に継続と安定性を求めてゆけば湯沢町の将来は明るいと確信しております。

一
般
質
問